エコアクション21

環境活動レポート

《発行年月日　平成23年　9月30日》

《対象期間　平成22年6月～平成23年5月》

22 年度施工工事
一般国道 397 号田原地区道路改良工事
施工状況

伊藤建設株式会社

目　　次

Ⅰ　環境方針 …… 1

Ⅱ　事業活動の概要 …… 2

Ⅲ　環境負荷の状況 …… 5

Ⅳ　環境目標とその実績 …… 6

Ⅴ　主要な環境活動計画の内容 …… 7

Ⅵ　環境活動の取組結果の評価 …… 9

Ⅶ　環境関連法規への違反、起訴等の有無 …… 10

Ⅷ　その他 …… 11

環　境　方　針

伊藤建設株式会社は、建設工事及び産業廃棄物処理の事業活動において、環境に影響を与える立場である事を認識し、自らの事業活動における環境負荷の低減はもとより、地球環境の保全、環境との調和及び環境負担の低減のため、全社一丸となって環境経営システムを構築・運用し、自主的・積極的に環境保全活動に取り組みます。

そしてよりよい環境を次世代へ橋渡しする為、企業の社会的責任を全うしていきます。

環　境　行　動　指　針

１．二酸化炭素排出量・廃棄物排出量・総排水量の削減に努め、省エネルギー・環境負荷の削減を推進します。
２．環境目標を設定し、結果を点検・評価することにより効率的な取組を行います。
３．建設廃棄物の発生抑制・削減・リサイクルに取組みます。
４．建設現場および中間処理施設での、騒音・汚水等の発生抑制に努めます。
５．事業活動に関連する法規制は、遵守します。
６．教育活動や日常活動により、全社員に周知徹底するとともに、一般の人にも公開します。

平成２１年　１月　１日

伊 藤 建 設 株 式 会 社
代表取締役　伊 藤　孝 治

Ⅱ　事業活動の概要

１．事業所及び代表者名

伊藤建設　株式会社

代表取締役　伊藤　孝治

２．所在地

本　　社　　岩手県奥州市江刺区男石一丁目３番１０号

ﾘｻｲｸﾙﾌﾟﾗﾝﾄ　　岩手県奥州市江刺区玉里字巽沢５１９番１

３．環境保全関係の責任者

環境管理責任者　　高橋　稔也

連絡先　　TEL･FAX　0197-35-2211

E-mail　　itoken@pup.waiwai-net.ne.jp

URL　　http://www.pup.waiwai-net.ne.jp/~itoken

４．会社概要

創　業　　昭和２３年６月

設　立　　昭和３６年５月

資本金　　20,000 千円

５．事業内容

特定・一般建設業、産業廃棄物処分業、産業廃棄物収集運搬業

５．認証登録範囲

全社・全組織・全事業活動

６．事業の規模

事　業　項　目	平成 22 年度 (22.6.1～23.5.31)
①　完成工事高（千円）	196,062
産業廃棄物処分量（t）	12723.73
産業廃棄物収集運搬量（t）	63.55
②　従業員（人）	16
③　敷地面積（㎡）	
本社	1,276.25
ﾘｻｲｸﾙﾌﾟﾗﾝﾄ	9,808.19
④　車輌（台）ダンプ・乗用車	14
重機（台）ﾊﾞｯｸﾎｳ・ﾛｰﾀﾞｰ他	5
破砕機(基)ｲﾝﾍﾟﾗｰﾌﾞﾚｰｶ	1

７．許可の内容

許 可 名 許可番号	許可期限	許　可　内　容
特定建設業許可 岩手県知事（特－21）第 1245 号	平成 21 年 08 月 25 日 平成 26 年 08 月 24 日	土木工事業、建築工事業、大工工事業、とび・土工工事業、石工事業、屋根工事業 ﾀｲﾙ・れんが・ﾌﾞﾛｯｸ工事業、鋼構造物工事業、舗装工事業、しゅんせつ工事業 内装仕上工事業、水道施設工事業
一般建設業許可 岩手県知事（般－19）第 1245 号	平成 19 年 11 月 21 日 平成 24 年 11 月 20 日	管工事業
産業廃棄物処分業 岩手県知事　00323114345	平成 21 年 11 月 04 日 平成 26 年 11 月 03 日	中間処理（破砕処理） がれき類（ｱｽﾌｧﾙﾄ廃材及びｺﾝｸﾘｰﾄ廃材に限る。） 処理能力：422.4ｔ／日（52.8t／時間）
産業廃棄物収集運搬業 岩手県知事　00303114345	平成 21 年 09 月 30 日 平成 26 年 09 月 29 日	廃ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ類、紙くず、木くず、繊維くず、金属くず、ガラスくず、ｺﾝｸﾘｰﾄくず（工作物の新築、改築又は除去に伴って生じたものを除く。）及び陶磁器くず、がれき類（これらのうち自動車等破砕物及び特別管理産業廃棄物であるものを除く。）

８．処分方法・処理工程

①施設の種類　　固定式破砕施設

②産業廃棄物の種類　　がれき類（アスファルト廃材及びコンクリート廃材）

③処理能力　　４２２．４ｔ／日（５２．８t／時間）

④処理方式　　衝撃破砕方式（インペラーブレーカー　KAP－40）

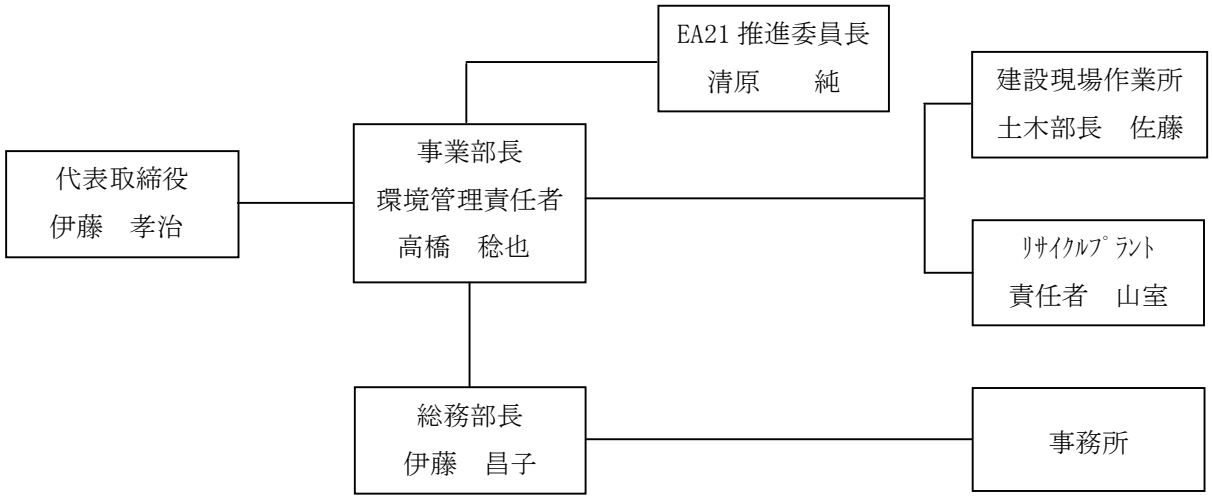
⑤処理工程　　計量　⇒　前処理（小割圧砕）　⇒　投入　⇒　破砕　⇒　磁選機　⇒　フルイ分け　⇒　製品ストック

９．廃棄物処理料金

処　理　物	標準価格（消費税別途加算）	単位	受入基準・処理方法
アスファルト殻	１，６００円	t	破砕
コンクリート殻	１，９００～２，３００円	t	無筋及び有筋・破砕
上記料金は、持込価格（消費税別途）です。また、収集運搬料金については、運搬距離等の条件によりますので、弊社までお問い合わせ下さい。			

１０．実施体制

①　組織図



②役割と責任・権限

役　割	担　当　者	責　任・権　限
代表取締役	伊藤　孝治	①環境管理責任者、必要な責任者を任命する。 ②環境方針、行動指針を制定する。 ③環境管理責任者からの報告を受け全体の見直しを行う。 ④環境経営システムの構築、運営、維持に対する資源を用意する。
環境管理責任者	高橋　稔也	①代表者に代わってシステムを構築し、運用する。 ②代表者に取り組み結果を報告する。 ③必要な教育訓練を計画し実施する。
EA21 推進委員長	清原　　純	①代表者及び環境管理責任者を補佐する。
各部長・責任者	伊藤　昌子 佐藤　正之 山室　榮司	部門内において ①省資源、省エネを奨励・実施する。 ③EA21 目標達成の取組を推進し、チェックし、環境管理責任者の了承の下必要な是正処置・改善を行なう。 ④公害防止、緊急事態への予防処置を行なう。
社　員		①環境方針の理解と取組の重要性を自覚する。 ②部門責任者の下、省資源、省エネに努める。 ③EA21 取組に関する教育訓練を受ける。

Ⅲ　環境負荷の状況

平成 20 年度から平成 22 年度までの主な環境負荷の実績は次のとおりである。
平成 21 年度と平成 22 年度を対比すると以下のとおりである。
今期は、23 年 3、4 月の震災の影響で、一時的に休業、災害復旧工事等があり
例年とは違った状況であった。

1. 総エネルギー投入量及び二酸化炭素排出量

購入電力：使用量は、事務所部門で 21%減少したが、産業廃棄物の処理量増加により
リサイクルプラントで 4%の増加となった。
灯油：事務所での使用はないが、現場事務所の暖房、工事用の使用したもの。
ガソリン：1 台増車また業務量増加、遠距離移動等により、16%の使用量増となった。
軽油：重機稼働の多い現場が多かったことから、建設重機 57%の使用量増。
ﾘｻｲｸﾙﾌﾟﾗﾝﾄは 2%の増となった。

2. 産業廃棄物の処分量

解体工事の受注もあり受入量が増加した。受入れたｱｽﾌｧﾙﾄがら・ｺﾝｸﾘｰﾄがらは、破砕し再生砕石として販売している。

3. 廃棄物等総排出量

一般廃棄物は、事務所から排出される紙類がほとんどである。裏紙として利用できる物は再利用している。新聞紙、ダンボール、カタログ等は、3.4 ヶ月に 1 度の割合で再生業者に持ち込みを行っている。
産業廃棄物は、工事現場で発生したものである。がれき類については、自社で処分しているため受託した産業廃棄物の処理量に算入した。

4. 総排水量

水道水は、代表者自宅との共同値である。

項目		単位	20 年度	21 年度	22 年度
総エネルギー投入量					
購入電力		MJ	295,531	207,515	203,471
化石燃料	灯油	MJ	10,591	14,313	7,046
	ガソリン	MJ	166,336	196,045	223,767
	軽油	MJ	1,634,510	1,839,267	2,248,545
温室効果ガス排出量					
二酸化炭素	購入電力	kg-CO2	13,944	9,738	9,687
	灯油	kg-CO2	719	972	478
	ガソリン	kg-CO2	11,161	13,155	15,015
	軽油	kg-CO2	112,291	126,357	154,250
	合　計		140,622	152,036	179,430
受託した産業廃棄物の処理量					
収集運搬量		t	0	0	63
中間処理量		t	5,908	9,071	12,723
廃棄物等総排出量					
一般廃棄物		t	2	2	1
産業廃棄物		t	15	6	60
総排水量					
下水道		m^3	459	398	364

Ⅳ　環境目標とその実績

《22 年度環境目標・実績》

			単位	21 年度 実　績	22 年度目標 22.6～23.5	22 年度実績 22.6～23.5	達成度合
①　総エネルギー投入量	購入電力	事務所	Kwh／月	304.50	330	240.50	◎
		ﾘｻｲｸﾙﾌﾟﾗﾝﾄ	Kwh／kg	958.17	950	763.46	◎
	灯油	全社	L／月	32.58	30	16.00	○
	ガソリン	全社	L／月	472.17	525	528.57	×
	軽油	建設現場	L／日	78.36	147.5	155.67	×
		ﾘｻｲｸﾙﾌﾟﾗﾝﾄ	L／kg	747.28	740	781.89	◎
②　温室効果ガス排出量	購入電力		Kg-CO_2	9,738	9,695	9,687	○
	灯油		Kg-CO_2	972	915	478	◎
	ガソリン		Kg-CO_2	13,154	12,816	15,015	×
	軽油		kg-CO_2	126,358	125,100	154,250	×
	合　計		kg-CO_2	152,036	148,526	179,430	×
③　廃棄物排出量	一般廃棄物		Kg	1,963	1,600	1,520	○
	産業廃棄物		t	5.54	60	54.39	○
④　総排水量	下水道		m^3	398	396	365	○
⑤　騒音･汚水等の発生抑制	建設現場		―	＊	＊	＊	＊
	ﾘｻｲｸﾙﾌﾟﾗﾝﾄ（騒音･振動）		db	66・50	75・65	62・53	○

※　建設現場における、騒音･汚水等の発生抑制については、数値での把握が出来ないため行動目標とする。

《22年度以降環境目標》

			単位	22年度 実　績	22年度目標 22.6～23.5	23年度目標 23.6～24.5	24年度目標 24.6～25.5
①　総エネルギー投入量	購入電力	事務所	Kwh／月	240.5	330	325	320
		ﾘｻｲｸﾙﾌﾟﾗﾝﾄ	Kwh／kg	763.46	950	948	946
	灯油	事務所	L／月	0.00	0	0.0	0.0
		建設部門	L／月	16.00	30	30	29
	ガソリン	事務所	L／月	474.39	400	396	392
		建設部門	L／月	54.18	60	60	60
	軽油	建設部門	L／日	155.67	78	77	76
		ﾘｻｲｸﾙﾌﾟﾗﾝﾄ	L／Kg	781.89	740	735	730
②　温室効果ガス排出量	購入電力		Kg-CO_2	9,687	9,695	9,610	9,525
	灯油		Kg-CO_2	478	915	915	915
	ガソリン		Kg-CO_2	15,015	12,816	12,704	12,593
	軽油		kg-CO_2	154,250	125,100	123,850	122,620
	合　計		kg-CO_2	179,430	150,331	148,869	147,428
③　廃棄物排出量	一般廃棄物		Kg	1,520	1,600	1,600	1,600
	産業廃棄物（建設部門）		t	54.39	60	7	7
④　総排水量	下水道		m^3	365	396	396	396
⑤　騒音･汚水等の発生抑制	建設現場		—	＊	＊	＊	＊
	ﾘｻｲｸﾙﾌﾟﾗﾝﾄ（騒音･振動）		ｄｂ	66・50	75・65	75・65	75・65

目標について

平成２２年度から、新たに中期計画を策定した。削減に取り組み始めて５年が経過し、使用量・CO2排出量を大幅に削減することが難しくなってきており、現状維持もしくは１％の削減を目標とする。

※　購入電力の温室効果ガス排出係数は、環境負荷の自己チェックシート（中央事務局）の0.468（kg-CO2/Kwh）を使用。

Ⅴ　主要な環境活動計画の内容

1．燃料削減

①重機燃料（軽油）の削減

・ホイルローダー

不要なアイドリング運転をしない

油圧リリーフ、トルコンストールの防止

前後進距離の適正化

ロード・キャリー時は、車速を抑え、ノーマルモードで走行する

・油圧ショベル

旋回角度最小運転、走行時のエンジンパーシャル運転の励行

油圧リリーフの防止

上部下部掘削でのロス低減

不要なアイドリング運転の防止

②自動車燃料（軽油・ガソリン）の削減

・エコドライブの徹底及び啓発

現場でのアイドリング・ストップ啓蒙

車輌の点検整備、タイヤ空気圧チェックの励行

エコドライブ講習会の受講

節電呼び掛け表示

2．使用電力削減

①破砕機の効率的な運転

・停止時間を増やす。空運転をしない

・投入時間に空きを作らない

②不必要な箇所の消灯

③室内温度管理の徹底、パソコン及び周辺機器の電源はこまめに切る

3．廃棄物排出量削減

①裏紙の利用・封筒の再利用、資源ごみの分別・回収は、今後も継続する

②工事現場などで発生する廃棄物のリサイクルを促進する

③現場事務所での分別回収の継続

④両面印刷の励行

4．総排水量削減

①水道の出しっぱなし等に注意し、節水に努める

5．騒音・汚水等の発生抑制

①低公害型機械の使用に努める。

②汚水の発生が見込まれる場合は、沈殿槽等を設置する。

低公害型機械の使用

Ⅵ　環境活動の取組結果の評価

平成２２年６月～平成２３年５月までの取組結果及び評価は下記のとおりである。

目標：二酸化炭素排出量の削減		単位	目標 22.6～ 23.5	実績 22.6～ 23.5	検　　証	代表者評価
使用電力の削減	事務所	Kwh／月	330.00	240.50	目標は達成した。	こまめな電源管理を引き続き行っていくこと。
	ﾘｻｲｸﾙﾌﾟﾗﾝﾄ	Kwh／kg	950.00	763.46	目標達成。	効率運転、機械整備等の日常管理を徹底すること。
灯油使用量の削減	全社	L／月	30.00	16.00	事務所は使用量０である。現場事務所で使用したもの。	現場責任者の責任で、温度調整を行うこと。
ｶﾞｿﾘﾝ使用量の削減	全社	L／月	525.00	528.57	1台増車、遠距離移動等により目標未達となった。	受注した工事によって、変動がある。目標の見直し等を検討しながら進めていくこと。
軽油使用量の削減	建設現場	L／日	80.00	155.67	目標未達。重機使用の工事が多く、使用量が大幅に増加したため。	
	ﾘｻｲｸﾙﾌﾟﾗﾝﾄ	L／kg	740.00	781.89	目標未達。3月以降、産業廃棄物の処分量が減少したことで、数値を押し上げた。	
廃棄物排出量の削減	一般廃棄物	Kg	1,600	1,520	目標達成。解体工事のため例年より産業廃棄物の排出量は増加した。	リサイクル意識は高まっていると思われる。今後も継続すること。
	産業廃棄物	t	60.00	54.39		
総排水量の削減	下水道	m^3	396	365	目標達成。今後も継続していきたい。	今後も継続のこと。
騒音･汚水等の発生抑制	建設現場	―	＊	＊	低騒音型機械を現場の状況により、使用した。汚水の発生はなかった。	積極的に使用すること。
	ﾘｻｲｸﾙﾌﾟﾗﾝﾄ	db	75・65	62・53	目標はクリア出来ている。	今後も継続のこと。

Ⅶ　環境関連法規への違反、起訴等の有無

１　関連法規類の遵守状況確認について

１．管理者が部下から違反の有無確認し、代表者に報告しています。
　　違反がある場合は再発防止について全社で話し合うことにしています。

２．地域住民からの苦情は、苦情受付簿を備えています。

３．関連法規遵守状況チェック表にまとめ、関連法規類の遵守状況を確認しています。

２　関連法規類の遵守状況について

１．社内で定期的に、遵守状況を確認した結果、違反及び抵触しそうな事項はありません。

２．関係機関より違反等の指摘・訴訟等はありません。

３　苦情について

１．地域住民からの苦情はありません。

Ⅷ　その他

１．教育訓練を平成２２年６月に、緊急事態の訓練を平成２２年６月、２３年２月に行いました。

２．ホームページで環境活動レポートを公開しています。

３．地域貢献活動として、カーブミラーの清掃を行いました。